

平成 27 年度 第 1 回 学校協議会 会議録

【第 1 回学校協議会概要】

1 日時 平成 27 年 7 月 2 日 (金) 18:00～

2 場所 岸和田市立産業高等学校会議室

3 出席者

(1) 学校協議会委員

産業高等学校 元 P T A 会長	池内 美智子
産業高等学校 P T A 会長	総田 隆司
土生中学校長 中学校校長会長	外畑 拓哉
産業高等学校 同窓会会長	寺田 秀雄
産業高等学校 前校長 (会長)	久井 孝則 (50音順)

(2) 学校側

校長	楠戸 啓之
全日制教頭 (司会)	汐崎 可寿美
定時制教頭	榎本 正広
事務長 (記録)	山本 徹雄
生活指導部長 (首席)	西村 元博

4 次第

(1) 校長挨拶

(2) 平成 27 年度協議会委員紹介及び会長選出

(3) 会長挨拶

(4) 協議

① 「平成 27 年度学校教育目標」について

(楠戸校長)

全日制について

・「高度情報化社会にふさわしい専門教育の充実に努め、将来的に地域社会を支えるグローバル人材の育成を目指す」：岸和田市の教育方針の中の産業教育の充実という欄に掲載されている。

グローバル人材とはグローバルな視点を兼ね備えつつ地域社会で活躍できる人材、まさしく本校が育てなければならない人材だと考えている。

・「担任団での連携を図りながら、担任として学級運営並びに生徒一人一人に応じた手作りのきめ細かい指導する」：手作りという言葉は非常に温かい響きで、産業高校は温かい学校であってほしいという願いを込めている。

・「生徒会の活性化を図り」：生徒会行事を通じて生徒 1 人 1 人が本校生徒としての帰属意識を高めることができる取り組み、3 年間で産高生に育つということが大事である。産業高校に誇りを持って卒業する生徒を育てなければならない。

・進路指導：従前より就職に強い産業高校であるが、最近では生徒のニーズに対応して進学にも力を入れていて、昨年度も国公立大学に 4 名が進学している。地域で唯一の商業並び

にデザインを専門的に学ぶことができる高校であることと、岸和田市立であることから、岸和田市はもちろんのこと泉州の人間という誇りも持って、郷土を愛する大人になって欲しい。

定時制について

定時制の目標も基本的には全日制と大きく変わらない。

- ・「特に0時間目『基礎学力講座』の定着を目指し、第2学年進級への意欲と実力を身につけさせる。」：入学した生徒には卒業までがんばらせる。そのためには進級というハードルを乗り越える基礎学力が必要となってくる。
- ・「コミュニケーション能力の育成」：これは全日制の生徒にも必要な能力でもあるが、人の話をきちんと聞いて内容を理解したり、自分の気持ちを上手に伝えられる生徒を育てていきたい。

② 「平成27年度学校教育目標」についての質疑応答

(委員)コミュニケーションという言葉は今まで使い古されているので、その前に「圧倒的」という言葉を必ずつけばどうか。ちょっと意識が変わるしコミュニケーションが大切だという雰囲気になるのでないかなと思う。またコミュニケーションをとる場をたくさん作るということも必要だと考えます。

(委員)このコミュニケーションは誰に対してのコミュニケーションですか。コミュニケーション能力の育成について学校で具体的に取り組んでいることは何かありますか。

(事務局)学校行事などあらゆる機会を通じて指導しています。進路行事の中で社会人としてのコミュニケーションについての話をすることもあります。特別な場を設定して、その時だけコミュニケーション能力を育てようというのではなく先生方がその時その時の状況の中で意識してコミュニケーション能力を指導してほしいという意味で学校努力目標にしています。

(会長)中学校の努力目標と違いはありますか

(委員)コミュニケーションというのは中学校でもだんだん出てきています。

(会長)自分で話すより先に聞くことができない子供が多かったりします。そこから一歩進んで自分の考えを話すことは非常に難しくなっている時代だと思います

(委員)子供とはよく話すが、コミュニケーションというのがうまくとられているのか分からない。対外的に年上の人に対してきちんと話をすることができるのか心配です。子供はよくラインを使っているが、ラインだけで本当に言いたいことが伝わっているのだろうかと思う。

(事務局)ラインで送った文章の最後に？をつけ忘れたがために違う意味にとられてトラブルとなったという話も聞きます。

(会長)グローバルという言葉は、産高が産高としてやっていく上で標榜していいと思います。産高の卒業生は岸和田を中心とした泉州地域にほとんど残っていますし、ローカルな学校です。それにちょっと広い視野を持たせる、非常に産高らしい目標になると感じました。

③ 「部活動活性化の取り組み(全日制)」について

(生活指導部長)

- ・平成26年度入部者数467名、平成27年度517名、部員数50名の増加
- ・各部の活動状況、活動実績報告
- ・以前から行なっている部員数増加のための取り組み
 - 入学式での部活動の勧誘
 - 部活動のハンドブックを新入生に配布
 - 新入生歓迎会で各部代表生徒が活動を紹介
- ・新たな部員数増加のための取り組み
 - 合格発表時に各部活動紹介のポスターを掲示
 - 平成24年度から部活動見学ツアーを実施
 - 平成25年度からは体験入部を実施 一人3クラブ以上必ず体験することにした。
 - 今年度は一人4クラブ以上に増やし、体験入部期間を延長した。
- ・部活動に入らずアルバイトをする生徒がいる。
- ・長年顧問として指導をされてきた先生から若い先生にどのように指導法方法を引き継いでいくのか、また顧問の男女のバランス等の課題もある。

④ 「部活動活性化の取り組み（全日制）」についての質疑応答

(会長)「部活動の活性化」というテーマは以前から学校の問題として取り上げられています。

それは、即効性のある対策がないからだと思います。

(委員) 公立高校で、これだけインターハイや、近畿大会に出場しているのですから、産高の部活動はよくがんばっていると思います。

(委員) 中学校での部活動加入率は、概ね運動部で60%台、文化部で70%の下くらいです。
中学校と違うと感じたのは、顧問の先生の異動が少ないということです。それが反対に良いのかもしれませんが。

(委員) 岸和田に競輪場があるので、自転車競技を教えるコーチがいたら自転車競技部を作ったらいいと思う。

(委員) 部活の顧問は複数でやっているけど過重負担だと思います。最近の先生は多忙というニュースを聞きますが、平日の仕事をしなから土日もなくクラブ指導をするというのは非常に大変ですね。

(会長) 先生方には頑張って、熱心に取り組んでいただきたいと思います。